

設 立 趣 旨 書

1 趣 旨

昨今、環境問題が多く取りざたされ各企業が環境対策、環境対応型商品を作り出していますが多くは自己都合または企業の利益の為だけに走り、環境問題を大きな視点で考える構想を持ち合わせていない思いがあります。

産業界が CO2 を削減するだけでなく、一方で森林伐採による CO2 の吸収量の減少も防がないといけません。

また、物の流れ（物流）においても、動脈と静脈を同時に考えないといけません。

動脈は生産された製品が実際に使用されるまでの流れ、静脈は使用後に回収、廃棄される流れ特に日本ではあまり静脈に関しては有効利用がされず、大量生産、大量消費に流され、動脈側に重点を置いた研究開発や商品開発などが行われています。

いくら環境にいい商品を導入しても、今まで使っていた使用品を廃棄に廻してしまっただけでは全体的にはあまり意味がありません。

また電力事情を考えても分散型電力が増えれば環境にいい再生可能エネルギーを生み出せます。

今後、化石燃料は枯渇の時代が参ります。

現状の政策ではたしてクリーンなエネルギーを生み出す施策は作れるのでしょうか。

私たちはクリーンエネルギーや電源の考え方を見直し、もっと身近に体感してもらう再生可能エネルギー（自然エネルギー）を感じてもらう

電気の使い方をもっと有効に使ってもらう

廃棄されているものから電気を作る、など

まだまだ、新しいアイデア、イノベーションによってエネルギーを変えることができると信じています。

そして、関心を持ってもらう、感じてもらう、想像してもらう、ことによりクリーンエネルギーイノベーションを次世代の世代につなげていけるよう強いメッセージ性のある発信源となる活動から踏み出したい。

以上のような趣旨に基づいて、エネルギーの面から循環型社会の実現、環境を守る豊かな社会の実現に寄与することを目的として特定非営利活動法人「クリーンエネルギーイノベーションの会」を設立し、社会へ貢献していくことといたしました。

2 申請に至るまでの経緯

近々の活動

- H22.12月 富山県宇奈月町の冬のイベントに際し、小水力発電にてできる電気をバッテリーで充電して、それを町のイベント会場に持ち込みイルミネーションを点灯させた。
バッテリーは特定非営利活動法人クリーンエネルギーイノベーションの会よりレンタルにて提供した。
バッテリーは再生品を使用した。
期間は12月～2月末まで
宇奈月町は2011年度より段階的に町中でのエンジン車両の乗り入れを制限してエコタウンを目指す予定。
電気自動車も新品の車両ではなく既存の車を改良して、また電源となるバッテリーは再生バッテリーを希望しているので今後も取り組みが増える。
- H22.12月 東京駅で12月17日から行われる「フラワーファンタジア2010「光の祭典」」において特定非営利活動法人クリーンエネルギーイノベーションの会の再生バッテリーを使いイルミネーションを点灯させた。
それにはソーラーシステムで蓄電したバッテリーも一部使用する。

平成23年 2月 25日

特定非営利活動法人クリーンエネルギーイノベーションの会
設立代表者 富山県富山市五番町4番10号
氏名 西野 俊一 印